

忘れまじ 1.17!!

28年目



1月17日は「忘れることなく受け継いでいく日」です。今年で28年目になった“阪神淡路大震災”。その日の午前5時46分52秒に起きた大地震は、震度7（マグニチュード7.3）という大きさと、当時では経験したことのないものでした。命を奪われた人は災害関連死も含めると6434名、そして全・半壊家屋が約25万棟という被害は、戦後に発生した自然災害の中でも、東日本大震災が発生するまでは最悪のものでした。

早朝でほとんどの人がまだ目覚めていない頃の大地震であり、全・半壊家屋が多かったため、数万人が生き埋めとなり、圧死者が全体の大半を占めるという惨状でした。そして、続いて起こった火災。被災した街並みには消防車が入れず、消火活動もままならない中で、しばらくは燃えていくのを見つめるしかないという歯がゆいものでした。それによっても多くの人々が犠牲になりました。

私の友人も家を失ったり、ケガをしたりして大変な思いをしました。私の家や周辺地域は壁にひびが入ったり、食器などが破損したりしただけの軽傷で済みましたが、西宮に住んでいた私の同僚は家屋がほぼ全壊しました（幸い体は家族も含めて何とか軽傷でした）。震災後まもなく、休日を利用して片付け等の応援に行きました。道が混んでいることを見越して原付バイクで出発したのですが、途中から渋滞ではなく道路が陥没していたり、倒壊物等で通行不可能になっていたりして、結局、2時間ほど線路伝い等を歩いてやっと現地に辿り着きました。親類・知人の安否確認や応援に駆け付けた人は、ほぼ同じように歩いて目的地に向かう人が多かったです。私たちは情報交換をしながら一緒に歩きました。

同僚は避難所生活。避難している小学校もあちこち被害を受けていて、「これ大丈夫か」という状態。たまに余震で揺れるたびギシギシと音が鳴る体育館で、とても恐かったです。まだまだ救援物資が整っていないときでしたので、持参したわずかの水や食料などの救援物資でも、とても喜んでくれました。その日は家屋の片付けと周辺の清掃などを手伝いました。晴れていましたが、風が強くとても寒かったことを覚えています。避難所も暖房が止まっていて、焚火などで暖を取っている状況でとても寒かったです。

ニュース報道（NHK）では、今年は神戸市内の公園などで行われる追悼行事が3年ぶ

りに新型コロナ感染症拡大前の規模で開催されるそうです。しかし、兵庫県内の追悼行事は年々減少傾向が続いているようです。その中で、神戸市中央区の公園「東遊園地」では、犠牲者を追悼するおよそ1万本の竹と紙の灯籠が日付の「1.17」と「むすぶ」という文字の形に並べられました。「むすぶ」という文字には震災を経験した人が知らない世代に語り継ぐなど、得られた知恵や教訓を伝えていきたいという思いが込められているそうです。震災を経験していない世代が増える中、記憶や教訓をどう継承していくかが一層大きな課題となっています。

あれから28年という歳月が過ぎました。被災者の方々の言語に絶する辛労と、全国からの多くの応援のおかげで、何とか街並みは復活していますが、被災者の方々の心の傷はまだ癒えていません。これから先、私たちにできること。それは、この事実と思いを次へ受け継いでいくことです。そして、その教訓を生かしていくことです。この機会に防災について再度お家の方と話し合ってください。そして、若い皆さんがこれからの世代に「むすぶ」役割をぜひとも果たして欲しいと思います。よろしくお願いします。



1月20日(金)は24節気の第24番目の「大寒(だいかん)」です。文字通り1年で最も寒さが厳しくなる頃です。しかし、これから2月の節分そして立春へと暦の上では春へと着実に進んでいきます。「冬は必ず春となる」や「夜明けの来ない夜はない」など、自然の摂理を引いて、どんな辛い時でも前へ進むことを促

す言葉はいくつもあります。また、昔から「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われているように、この3か月はあっという間に終わってしまいます。これらの言葉をかみしめながらこの先も頑張りましょう。早くこの寒さが緩んでくれればいいですね。

その寒さを吹き飛ばすような歓声が体育館に響きました。2年生の百人一首大会です。17日の午後から行われた同大会はコロナ禍以前とほぼ同様の企画で実施されました。実行委員のメンバーは実際の競技かるたの衣装を身に着けてとてもかっこよかったです。練習時間はあまりありませんでしたが、2年生のフロアーには各歌の解説が張り出され、大会の雰囲気は準備の段階でかなり盛り上がっていました。各クラス・各人が作戦をそれぞれ考えて札を取り合い、とても気合が入っていましたね。読み手の各先生方の声にも力が入りました。皆さん目当ての札はGetできたでしょうか。

